SC86CWG4（光能動部品）　2020年10月会合対処方針

抄録：2020年10月会合では、24件の文書メンテナンス審議および4件の回覧文書に関する議論を行う。PICに関するプレゼンテーションも行われるため注視したい。

1. 会合情報
   1. 開催予定日 2020年10月20日(火)～21日（水）（日本時間）
   2. 開催場所 WebExによるリモートカンファレンス
   3. 出席予定者 磯野秀樹（富士通オプティカルコンポーネンツ）、小倉一郎（PETRA）、

　　　　　　　　　　　　　　下小園真（NTT）、渋谷隆（白山）

1. 会合対処方針
   1. 光能動部品製品規格関連（62148シリーズ）
2. IEC 62148-15 Ed.3（パッケージおよびインタフェース標準　第１５部：VCSEL）　　　　　　　CDVコメント解決を行う。
3. IEC 62148-21 Ed.2（パッケージおよびインタフェース標準　第２１部：FBGAおよびFLGAの電気インタフェース）【日本担当】

　　　CDV回覧中（12/4投票期限）。CDV内容の説明を行う。

2.2 光能動部品性能標準（62149シリーズ）

1. IEC 62149-3 Ed.3（光能動部品性能標準　第３部：変調器集積型光送信器（40 Gbit/s級））【日本担当】

**2020年7月7日にIS発行されたが、表6の“Fibre pull”に関して修正が必要な状況である。本会合にて議論を行い、Corrigendum発行か早期改版にて対応を行う予定。**

(2) IEC 62149-5 Ed.3（光能動部品性能標準　第３部：変調器集積型光送信器（40 Gbit/s

　　　　　級））【日本担当】

**2020年8月18日にIS発行された**ため本会合での議論はなし。

2.3 試験及び測定方法関連（62150シリーズ）

　　(1) IEC 62150-6 Ed.1 (光能動部品試験測定法　第6部: ユニバーサルメザニンボード)

　　　　　　NPコメント解決を行う。

2.4信頼性関連（62572シリーズ）

(1) IEC/TR 62572-4 Ed.2（信頼性　第4部：レセプタクル型光送受信器の光コネクタ端面清掃方法のガイドライン）【日本担当】

**2020年9月8日にIS発行された**ため本会合での議論はなし。

2.5 メンテナンス文書

　　　24件がメンテナンス対象となっており、基本的には安定期日2年延長の方針で臨む。上海会合で

　　　の決定事項となったIEC 60068シリーズとIEC 61300シリーズの対応関係については留意して

　　　検討を行う。安定期日2年延長の方針以外の物については以下に示す。

1. IEC 62007-1 Ed.3（光伝送用半導体レーザ　第１部：通則）【日本担当】

Normative referenceのIEC 60747-5-1がwithdrawnとなっているため、改訂を提案する。

1. IEC 62148-12 Ed.1（パッケージおよびインタフェース標準　第１２部：同軸RFコネクタ付きレーザ発振器）【日本担当】

前文に記載のIEC 62148シリーズの文書体系が現状と一致していないため改訂を提案する。

1. IEC 62148-17 Ed.1（パッケージおよびインタフェース標準　第１７部：二重同軸高周波コネクタ付き送受信器）【日本担当】

SC46Fにて議論中の同軸コネクタ（SMPM）に関する文書の進行状況をセクレタリに確認した上で、本規格に盛り込める状況であれば改版を提案する。

1. IEC 62149-4 Ed.2（性能標準　第４部：ギガビットイーサ用1300nm送受信器）【日本担当】

Optical output power (multimode fibre)の最大値が-3.5 dBmになっており、この値がIEEE 802.3-2015で規定されている-3.0 dBmと一致していないため、改訂を提案する。

1. IEC TR 62572-2 Ed.1（信頼性関連　第２部：レーザモジュールの劣化に関するテクニカルレポート）【日本担当】

信頼性関連文書に関しては、進展があまりないため安定期日10年を提案する。

1. 特記事項
   * 1. 86C/WG3とのジョイントプロジェクト文書（SOA関連）

・IEC TR 61292-9 Ed.2（半導体光増幅器）【日本担当】

メンテナンス審議、改訂段階にあるIEC 61290-1-1 で規定されるSOAのゲインリップルの測定に関する項目を反映させた改訂を提案する。PLを再確認する。

* + 1. PIC関連企業から2件のプレゼンテーションが行われる予定。
    2. 光通信におけるレーザ安全（IEC 60825-2 Ed.4）がまもなくFDISステージに進むため、タイミングを合わせて光トランシーバのＣlass 1/ 1Mレベルの計算方法に関する新規提案を日本から行う予定。

1. 次回会合

2021年3月　詳細未定

以上